

株式会社 トータルブレインケア

所在地 神戸市中央区港島中町 4-1-1
ポートアイランドビル 6F
事業内容 情報サービス
TEL 078-335-8467

脳の認知機能をトレーニングするクラウドサービス

脳の認知機能を「見当識」「注意力」「記憶力」「計画力」「空間認識力」の5側面に分類し、個々の認知機能の特性に合わせたトレーニングが可能なクラウドサービス「脳活バランス-CogEvo」を展開。

沿革

◆ 起業に至る経緯

代表取締役の河越眞介氏は、超高齢社会を迎え、信頼できるデータに基づいたエビデンスベースの本物の商品を医療機関などに営業展開していくなかで、認知症の理解を深めるため日本認知症学会にも所属し、多くの大学の研究者の先生方と交流を深めた。そうした中で、現状では簡便な認知機能の効果測定するものは無く、同様に認知症の早期発見には時間や手間がかかるなど大きな課題があることを知った。そこで認知症の早期発見の観点で貢献できる事業の立ち上げを検討する事になり、まず知識を深めるために、認知症早期発見予防研究会への参加や認知症早期診断等を実施している病院・クリニック等や企業を訪問し、徹底的にヒアリングを行った。

しかし、既存の製品や検査はどれも、認知症かどうかを診断するためのツールであり、時間と人手が掛かる旧来のもので、早期に認知機能の変化を捉え、予防に役立つものではなかった。そのような中、高次脳機能障害のリハビリ用に使われているツールが存在することを知り、それを基に、「認知機能が見える化」することで認知症の早期発見に繋がるのではないかと考え、クラウドシステムとして認知機能のアセスメントツールの開発に乗り出すこととなった。

2015年10月、内閣府の革新的研究開発推進プログラム（ImPACT）事業で、2015年度の「Healthcare Brain チャレンジ」にCogEvoの前身である脳活バランスを主軸とした美しい脳プロジェクト「脳のいきいき健康教室」が入選した。それを機に一線を画した形として新た

な需要を見込み、また同事業は河越氏が人生のテーマとして掲げる「社会課題の解決」と合致したことで企業を立ち上げるに至った。

特徴・強み

◆ ビジネスモデルとその特徴

【CogEvo（コグエボ）の操作イメージ】



兵庫県の新産業創出支援事業等の補助金や助成金を活用し、自分で認知機能を知ることができ認知症の課題を解決する「CogEvo」の開発を開始。医療機器分野では三菱ケミカルホールディングスグループの生命科学インスティテュートと業務提携し共同開発を行っている。

2017年3月には「CogEvo（コグエボ）」として認知機能のチェックとトレーニングができるクラウドサービスとして商品化し、販売を開始した。

ビジネスモデルとしては、サブスクリプショ

ンであり毎月の利用料金が支払われる。また、プロと呼ばれる施設版並びにパーソナルと呼ばれる個人版の2種類を擁している。タスクの英語バージョンも完成している。さらに、2021年4月頃には法人向けとして「CogEvoBiz」の利用開始を予定している。

◆ 強み・アピールポイント

各分野の第一人者の先生方との共同研究により作成した論文に基づくエビデンスベースを重視し、研究・開発・テストマーケティングを過去5年間実施してきた。データ解析に時間を掛け、着実にエビデンスを構築している。

例えば、国立長寿医療研究センターが行っている認知症を抑制できるかを検証する国家プロジェクト「J-MINT」研究において、ナショナルスタンダードの認知機能検査10項目のうちに「CogEvo」が追加されたほか、認知症以外では脳震盪の分野で日本ラグビーフットボール協会（JRFU）のスポーツドクターが「CogEvo」を使うなどエビデンスの社会実装が始まっている。

まずは認知症の早期発見・予防としてヘルスケア分野で実績を作ることで、三菱ケミカルホールディングスのLSIIが医療機器分野で販売を担う。

将来展望

◆ 今後の事業展開、5年後、10年後の目標とする到達点やロールモデル、拡充したい販路（ターゲット層）等

今後の事業展開に関して、5年後の売上高は10億円規模を目標とする。上場を目指すよりも売上を伸ばして利益を確保し、内閣府や経産省等の支援を活かした国のモデルとして活躍していきたい。

人員の増加意向はあまりなく、クラウドシステムをもって連携した企業体及び企業グループとして、当社は開発・研究・テストマーケティングを実施し、販売に関してはそれぞれの業界の知見を持った企業に任せる意向となっている。

10年後の事業展開に関しては不透明な部分も多いが、5年先には日本の認知症予防の成功モデルをもって日本を飛び出し、海外に向けて展開する意向がある。

テストマーケティングを行いながら、商社と提携し、認知症予防の脳トレとして「CogEvo」を

展開させ、各国ごとにカスタマイズする世界戦略を思い描いている。

ただし、アメリカなどでも研究は進められており、類似品も多く出現していることから早期の海外展開が必要であり、積極的に資金調達をしてでも実施しないといけないと感じている。

しかし、現時点では新型コロナウイルス感染症の拡大による影響なども含め、先の読みづらい展開が否めない。また、現在は事業の基盤固めが必要であると実感している。

PR事項

◆ 提供サービスにおけるPR事項

2015年度、内閣府革新的研究開発推進プログラム（ImPACT）「脳情報の可視化と制御による活力あふれる生活の実現」「HealthcareBrainチャレンジ」に入選したほか、同年第12回池田泉州銀行コンソーシアム研究開発助成金事業に入選。2016年度は兵庫県新産業支援事業や新連携事業分野開拓計画に認定された。2017年度は新連携事業分野開拓計画の補助金が採択されたほか、ILS パワーマッチング BEST20、SOMPO 賞を受賞するなどした。さらに2019年度ではひょうごクリエイティブビジネスグランプリ 2019 の最優秀賞に選ばれた。2020年度ではSOMPO ホールディングス、国立研究開発法人長寿医療研究センター、カロリンスカ研究所が開発した「SOMPO スマイル・エイジングプログラム」に採用。日本郵便株式会社が全国で展開する「郵便局のみまもり訪問サービス」にも脳活トレーニングとして採用されている。

このように認められるなかで更なるエビデンスの構築にも取り組んでおり、「CogEvo」を多くの人に活用してもらえるシステムとして提供し、健康寿命の延伸に寄与する。

会社概要

設立：2015年11月
資本金：54,500千円
従業員数：7人
URL：<https://tbcare.jp>
主力サービス開始時期：2016年9月